

令和6年度 学校経営報告書（自己評価）

学校番号	44	学校名	静岡県立焼津水産高等学校	校長名	沼里 智彦
------	----	-----	--------------	-----	-------

本年度の取組（重点目標はゴシック体で記載）

	取組目標	成果目標	達成状況	評価	成果と課題
ア	「基礎的学力」、 「自己理解力」、 「将来設計力」、 「社会適応力」、 「危機管理能力」等を備えた 人材の育成	【教務課】 「授業が理解できた」と答える生徒8割以上 - 一日の家庭学習時間(平日)60分以上の生徒8割以上 - 到達度テストの単元正答率8割以上 - 月1回以上の小テストの実施及び表彰制度の実施	85.1% (昨年 89.9%) 全体 21.5% (昨年 16.6%) 1年生：16.2% →28.2% 2年生：14.0% →15.9% 3年生：30.4% →16.1% 正答率の向上が見られた。 SPI テストの導入により定着を図る	B	授業の内容が理解できると答えた生徒は85.1%で昨年より微減した。 家庭学習時間は昨年から微増だが、定着に課題が残る。特に、3年次の主体的に学びに向かうための働きかけを検証する必要がある。 スタディサプリの活用、学びの基礎診断の代替として新たに SPI テストを導入した。目標は達成できなかったものの、正答率が向上した。
		【企画研修課】 - 公開授業週間を年1回以上 - 同集団の授業評価を年2回 - 授業研究グループによる授業実践と相互評価の実施 - ICT活用等の校内研修を年2回	予定していた研修等はすべて実施できた。	A	授業参観については、やや消極的な面もあったが、適切に実施できた。また、ICT研修は外部講師を招請するなど充実した研修を実施できた。
		【進路課】 - 全学年を対象に進路ガイダンスを年2回以上実施 - 全生徒を対象に進路希望調査と個別面談の実施 - 就職・進学者の追跡調査の実施と在校生への還元	9月、2月実施希望調査、個人面談共に実施済調査継続中	B	個々の生徒ニーズに合わせた進路指導ができた。特に、進路の多様化（就職58.8%、進学41.2%）が進む中、進学指導でも実績を上げることができた。一方で、進学者等の追跡調査が未達に終わった。
		【生徒課】 - 水高カードの発行指導枚数前年比－10% - 遅刻者数前年比－10% - 進んで挨拶ができる生徒9割以上	発行数 39 (昨年度 40) 交通事故件数 8 (昨年度 12) 挨拶 93.2% (昨年 95.8%)	B	カード発行が若干減った。 交通事故件数は減少したが、交通ルールの遵守、マナー指導が課題。挨拶の励行では、目標を達成できた。

様式第3号

		【保健課、学科】 ・実習、授業における重大事故件数0件 ・学期ごとに施設・設備等の安全点検を実施	重大事故 発生件数0件 学期毎、安全点検 実施済	A	・重大事故を防ぐことができた。 ・施設、設備の安全点検を定期的に行うなど、引き続き安全教育を徹底する。
イ	将来のスペシャリストとして、確かな知識と技能の定着、職業人としての「志」を育成	・2年生対象のインターンシップへの参加率100% ・進路実現100% ・学科関連企業等への就職・進学率 85%以上	各科ともほぼ達成できた。 【海洋、食品、栽培、流情】 就職、進学比率 55.8% : 41.2% 関連企業等への就職、進学率は右記の通り	B	・インターンシップは予定どおり実施済。 学科関連への就職、進学率は 68.9% 【海洋】 ・3年：進路実現 100%、進学 16 名含む。 学科関連への就職、進学率 81.5% 【食品】 - 学科関連企業等への就職、進学率は 41.1% ・数値目標は達成できなかったが、生徒のニーズに応じた進路指導は行うことができた。【栽培】 ・3年生進路実現 100% 学科関連への就職・進学率は 100% ・次年度に向けて、流通、販売、地域への関心等を高める授業・実習を増やしたい。【流情】
ウ	地域の発展を見据えて、全国・世界に羽ばたくグローバル人材の育成	【教務課】 ・短期海外留学等の派遣者数 1人以上（継続）	2名留学（ミクロ）、次年度はグループ（3人）研修を計画中	A	生徒は意欲的に活動、挑戦しようとしている。新たな取組についても積極的に支援していく。
エ	「自己肯定感」の向上、「多様な価値観を共有」できる豊かな人間性を育む	【生徒課】 ・部活動に加入する生徒の割合 100% ・学校生活を通して「自分が成長した」と実感できる生徒 8割以上 ・生徒による主体的な企画・運営が行われている ・社会貢献活動等に生徒が積極的に参加している	加入率は達成した。 成長を実感できた 80.9%（昨年 76.4%） 学校行事（文化祭等）を通じて生徒が主体的に学校生活を送ることができた。	B	成長を実感できた生徒の割合が達成できるよう「自己肯定感の向上」が図れる取組（学習機会）を増やしたい。 昨年度生徒会が中心となり、能登半島地震への募金活動を行い、支援した学校との交流が行われた（メール等）
		【図書課】 ・生徒貸出件数 3 冊以上（年間	生徒貸出冊数 1.8 冊、ビブリ	B	朝読書は学年毎に計画した。

様式第3号

		一人平均) ・朝読書の推奨 ・図書委員会によるイベントの企画・開催年2回以上	オバトルを実施した。 BYODの導入に合わせて新聞をPCで閲覧できるよう契約を増強した。		図書日より「波紋」の発行、図書館カレンダーの発行、掲示は有効だった。 新校舎への移転に伴い図書室を長期間閉館する制約があった。
オ	健康な心身の育成及び「自他の安全を守る」意識の醸成	【総務課】 ・防災、津波避難訓練 年2回実施 ・「災害時に適切な行動がとれる」と答える生徒8割以上	防災訓練2回実施 地域防災訓練への生徒参加率25.9% 適切な行動がとれる生徒88.0% (昨年96.6%)	B	新校舎への移転に伴い、防災訓練を分校と合同で実施した。 自治体主催の防災訓練の実施時期の多様化がみられ、対応に苦慮した。
		【保健課】 ・保健日より発行 年6回以上 ・薬学講座、熱中症予防講座の実施	保健日より発行年8回 薬学講座 熱中症予防講座 他実施	A	保健日より8回発行。 各講座については、感染症対策を意識し実施した。
		【相談室】 ・「気軽に相談できる教職員がいる」と答える生徒8割以上 ・担任、学年、保健室、相談室と連携したサポート会議の開催 ・SC(スクールカウンセラー)の活用、外部専門機関との連携強化	気軽に相談できる59.5% (昨年80.5%) 定期的にケース会議を実施し、保護者と協力して支援を行った。 SC、特別支援学校の先生に指導を受けた。	B	気軽に相談できる教職員がいる割合は約6割に減少したが、「全くない」と答えた生徒は昨年の19.5%から10.1%に低減した。 特別な支援が必要な生徒を専門機関につなげることができた。 ケース会議をとおして、学年、分掌と協力して対応できた。 SCの力を生徒支援に活用できた。
カ	学校経営基盤確立のための諸施策の推進	【教務課・総務課】 ・学校HP、学校公開、マスメディア等を活用した情報発信ができています ・SNS等を活用した保護者との連絡体制の研究、PTAの広報広聴活動が充実している	学校パンフレットのリニューアルを行った。 8月体験入学参加者数338(昨年407) 10月オープンスクール参加者数204(昨年224) C-learningを用いた連絡体制を構築できた。 PTA活動は、研修会の実施などを行った。	A	パンフレット等のリニューアルを実施した。 体験入学の参加者増に加え、中学校向け説明会や個別相談にも対応した。 PTA活動はコロナ禍の影響が改善され、安定的かつ良好な成果であった。

		【各学科】 ・地域や異校種と積極的な交流の実施 ・企業や大学等と連携した教育プログラムの開発	・実習船を活用した交流が実施できた【海洋】 ・地域交流、異校種交流（小・中）を実施した【食品】 ・民間企業等との積極的な交流は実施できた。【栽培】 ・販売実習「魚国」の実施に加え、企業や大学とのプログラムも実施できた。【流情】	A	・焼津分校をはじめ、異校種交流を行った。【海洋】 ・カネトモ、焼津漁協との共同研究（一部）実施中。 ・焼津南小との交流、こどもフォアフロント事業（小学生対象、1月実施）今後も一層の充実を図りたい。【食品】 ・民間企業との共同研究2件、民間企業・公的機関と連携した実習を4件実施した。【栽培】 ・焼津市役所などと連携した取組ができた。【流情】
		【管理職】 ・法令順守、誇りと使命感の涵養が図られている ・組織全体で業務の効率化、働きやすい職場づくりに取り組んでいる	職員会議中にコンプライアンス研修を行った。職員用の掲示板を活用して、法令順守等、確認を重ねた。 C-ラーニングの導入・活用等、学校全体で業務の効率化を進めた。 副校長・教頭会を実習船で実施した。	B	交通事故や他校のコンプライアンス事例を通じて、自身を振り返る機会を設けた。今後も不祥事根絶に取り組む。 I C T機器の有効活用、働き方改革等について、次年度も組織全体で取り組んで行く。 会議等の会場を実習船を利用し、広報活動にも利活用した。
		【事務室】 ・適正で効率的な予算執行がなされている ・施設設備の定期点検、必要に応じた修繕がなされている	適正で効率的な予算執行ができた。 施設設備の修繕については、法令不適格箇所を是正した。	A	昨年度の反省を踏まえ、予算の適切な執行ができた。 老朽化した一部の施設の改修等に今後も取り組んでいく予定。